

拉致問題に関する主な動き①

1977-1983年 (昭和52-58)	政府認定の拉致被害者17名の拉致事案発生
1991年 (平成3-)	機会あるごとに北朝鮮に対して拉致問題を提起。 北朝鮮側は頑なに否定
1997年 3月 (平成9)	「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会（家族会）」結成
2002年 9月 (平成14)	第1回日朝首脳会談（於：平壤）。日朝平壤宣言に署名 ⇒金正日国防委員長自らが拉致問題を認め、謝罪
10月	拉致被害者5名が帰国
12月	「北朝鮮当局によって拉致された被害者等の支援に関する法律」成立
2004年 5月 (平成16)	第2回日朝首脳会談（於：平壤） ⇒北朝鮮に残されていた、2002年10月に帰国した拉致被害者の家族5名が帰国。安否不明の拉致被害者について、金正日国防委員長は、直ちに「白紙」の状態からの本格的な調査を再開する旨約束
11月	曾我ひとみさん一家はジャカルタで再会、日本に帰国（7月） 日朝実務者協議（於：平壤） ⇒北朝鮮から引き渡された横田めぐみさんの「遺骨」とされた骨の一部から、めぐみさんのものとは異なるDNAを検出。北朝鮮に強く抗議
2005年 12月 (平成17)	国連総会本会議で初の北朝鮮人権状況決議採択
2006年 4月 (平成18) 6月	拉致被害者家族とブッシュ米国大統領との面談 「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」成立